

件
きずな

朝顔に つるべ 釣瓶とられて もらい水 加賀千代女

市議会報告

小林たかひろ

新型コロナウイルスも「デルタ株」に進化して威力アップ。感染力も従来型と比べて1.8倍も高いと言われています。市内でも65歳以上を対象にワクチン接種が進められていますが、うち終えても油断大敵。皆さんには、引き続き3密を避け、マスク、手洗い、消毒を欠かさず、感染防止対策に努めてください。さて、先に開かれた6月定例市議会で市長以下執行部に「質問・提案」を行いました。コロナ支援情報と併せて、そのおもな内容をお知らせいたします。



始めに、新型コロナウイルス支援情報について、日向市の取組みをお知らせします。(第9弾・緊急経済対策等の主な事業)

1. 乳児子育て応援特別給付金 問い合わせ:こども課(Tel 66-1021)

長引くコロナ禍の影響を受けながら妊娠・出産をされた子育て世帯の経済的な負担を配慮して、安心して出産・育児に専念していただけよう、国の特別定額給付金の対象とならなかった乳児を養育する世帯に給付金が支給されます。

▶対象児童

- ①令和2年4月28日から基準日（令和3年6月25日）までに生まれ、基準日当日、市内に住所があった児童
- ②基準日の翌日から令和4年4月1日までに生まれ、生まれたときに市内に住民登録をした児童

▶支給対象者→対象児童を養育し、下記のいずれかに該当する方

(※市内に住所がある方に限ります)

- ①市から児童手当を受給している方（申請は不要です）
 - ②公務員（申請が必要です）
 - ③市外に住んでいる配偶者が他市町村から児童手当を受給している方（申請が必要です）
- ▶給付金額→対象児童1人につき5万円です。
▶支給時期→令和3年7月中旬予定です。



2. 低所得子育て世帯への生活支援特別給付金(ひとり親以外)

問い合わせ:こども課(Tel 66-1021)

▶対象者（ひとり親以外の子育て世帯に生活支援特別給付金を給付）

- ①令和3年度の住民税均等割り額が非課税の方
- ②令和3年1月1日以降に収入が急変して住民税非課税相当となった方（家計が急変した方）

▶対象児童→0歳から18歳以下

(障がい児は20歳未満。令和4年2月末までの新生児も含む)



▶給付金額→対象児童1人につき5万円

▶支給時期→令和3年7月中旬を予定です。

3. 生理の貧困に対する生理用品の配布

問い合わせ:男女共同参画推進室(Tel 66-1006)

生理用品の入手が困難な「生理の貧困」やDV、虐待など厳しい状況にある方に対して、生理用品や相談窓口などを掲載したリーフレットを配布して生活の維持や問題解決、自立などを応援します。

▶配布場所→男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」ほか、「こども遊センター」などの窓口、「子ども食堂ひゅうが」や「フードバンク日向」、市役所、公立6公民館等の女子用トイレ等。

▶配布枚数→2,400パック（7月5日から配布予定）

4. 保育所等の感染拡大防止対策の強化

問い合わせ:こども課(Tel 66-1021)

市内の私立・公立保育所などで、感染拡大防止対策を図りながら継続できる保育を実施するために必要な経費が助成されます。

- ▶対象→保育所、幼保連携型認定こども園、認可外保育施設
- ▶補助額 ①定員19人以下→上限30万円（4施設）
②定員20~59人→上限40万円（8施設）
③定員60人以上→上限50万円（19施設）

▶対象となる経費

「職員手当」や「マスク、消毒液などの感染拡大防止用品の購入費など。

5. 観光宿泊クーポンの発行

問い合わせ:観光交流課(Tel 66-1026)

コロナ禍の収束を見据え、地域経済の活性化を図るために宿泊業や飲食業などの市内観光関連事業者と連携して、宿泊者など向けのクーポン券が発行されます。

- ▶発行数→1万セット（1セット500円券が6枚・3,000円分）
- ▶開始時期→地域ごとの感染状況を見ながら、時期や対象範囲などを考慮して実施されます（8月上旬を目途に実施予定）。

▶配布場所→後日募集した市内の宿泊施設

- ▶申込方法→①宿泊施設の予約→②クーポン利用の事前申請手続き（日向市観光協会：Tel 55-0235）が必要になります。

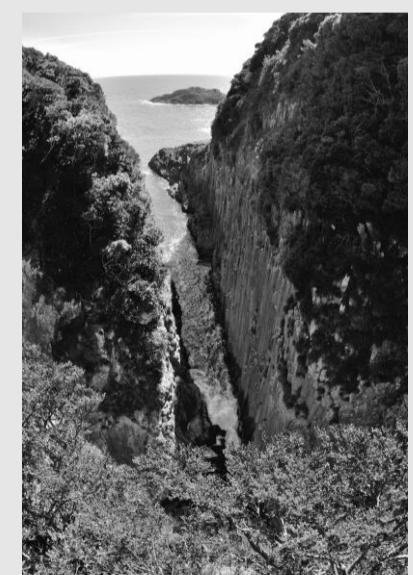
- ▶利用できる店舗→市内の登録宿泊施設、飲食店、タクシー、道の駅など。

6. 観光地の魅力向上

▶看板や広告の充実

魅力あふれる観光地の発信→市内8カ所に看板設置

- ▶Wi-Fiの整備→お倉ヶ浜海水浴場ビーチハウス前に増設されます（エリア拡大）。



70m級の柱状節理が人気の馬ヶ背絶壁

▶馬ヶ背展望所を全面改修

展望所の突き出しスペースを拡張して、他に類をみなすシリリングな絶景スポットとしての魅力を高めます。



お倉ヶ浜ビーチハウス前にあるWi-Fi(ワイファイ)も増設。パワーアップされます

▶一般質問

○耳川・河川環境保全の取組み

耳川の大内原ダム下流域の砂礫の堆積と水質汚濁、併せて、埋もれた美しい親水空間に光を注ぐ取組みについて質問しました。

市長の答弁では、「平成29年から最下流域の2つのダム（大内原・西郷ダム）を改造（通砂型と言つてダム上部から放流していた構造をダム下部から放流するように改造）して水を流している。改造する際には、ダム湖底に溜まっていたヘドロを粒子の荒い砂で覆うなどの工事をしてヘドロが流れ出ないようにしたと聞いています。

水質検査は河川とダム管理者（河川は県、ダムは九州電力）ほか、市でも10箇所で行っており、いずれも良好な河川水質が保たれている」とのことでした。

現在、コロナの影響で、「ウッショック」と呼ばれる外国産材が入りにくい現象が続いており、国内産材の伐採が進んでいます。



むき出しになった山肌からの濁水が耳川本流へと流れ込む…。

通砂型に構造をかえた大内原ダム

また、ダム湖底に溜まっていた「シルト」と呼ばれるヘドロがダム構造を通砂型にすることでダム下流の水に混ざり込み、なかなか川床に沈まない。濁りの長期化が続くことで太陽光が川底まで届かいため光合成が出来ず、コケ類が育たない現象や、比較的きめの粗い粒子の砂が石に生えているコケ類を覆つてしまつて、川に住むアユや子魚・エビ等の餌がなくなる。さらには、川に砂礫が蓄積して中州が出来たり、川底が浅くなったりしています。魚介類への悪影響は否定できませんよね。

市長は、「汚濁防止については、県や九州電力にも調査を要望する」と答弁しました。次に、耳川水系の1市1町2村で構成する「水系汚濁防止協議会」第三者機関として監視機能の強化を行うよう要望しておきました。

一つ瀬川のダム湖では、濁水が漏れ出ないようにダム湖にカーテンを張ったり、支流を利用して澄んだ水を流すためのバイパスを造ったりして、濁水を薄める仕組みを整えています。同水系汚濁防止協議会が監視の目を光らせているのです。耳川にもこうした取組みが求められます。

○埋もれた美しい親水空間に光を注ぐ取組み

耳川支流の「鳥川渓流」の滝群を取り巻く美しい景観を活かす取組みや石並川上流の「全国川遊び100選」に選ばれている「もたに橋」直下の遊泳場と現在、休校となっている「田の原分校」の活用を含めた地域おこしなど、地元ではそれぞれ有志の皆さんのがんばっています。

「地域へ飛び出す市職員」。今、求められているのは高齢社会の中、市との協働で、地域の活性化を促す取組みについて質問してみました。

市長答弁では、「コロナ禍で自然環境を活かした屋外体験活動の需要は高まっています。可能性を秘めた美しい景観地域でもあり、私自身も現地を観てみたい。意見交換を行いたい」とのことでした。

また、市のキャンプ場となっている石並川の「スコペ」についても「川遊び100選」に選定するよう、提案しておきました。この際、市にも知らせておくべきことがもう一つあります。石並川支流「丸木谷」上の畠倉山北東部の山麓は、林野庁が平成7年に「庭田水源の森」として「水源の森100選」に指定していることも言っておきました。

この山麓は、保安林でもあり、綾町の照葉樹林の森のように森林生態系保護地域の指定となるよう申請してみてはどうでしょうか…との提案も行いました。田の原地区には、パワースポットとなっている石神山の巨石群など、埋もれた景観が眠っています。

Back Stage

▶やっとこさ、編集後記。いつもながら、紙面づくりには、あれもこれも掲載したい。…そんな気持ちでPCに向かいます。▶最終日に追加で補正予算が提案されましたが、①権現崎公園のトイレから神社へと向かう遊歩道約60mの改修②日向サンパーク駐車場西側からも美々津灯台が見えるように支障木の伐採（約100m）③美々津駅前広場の洋式型トイレの設置（2基）や住宅だけのリフォーム（限度額10万円）に留まらず、店舗リフォームにも補助制度（限度額20万円）が創設されました。▶梅雨明けとは名ばかりの、うつとおしい毎日です。湿度も高く、うだるような暑さの昨今。コロナもですが、水分を補給するなど熱中症対策にも十分お気をつけてお過ごしください。

Koba

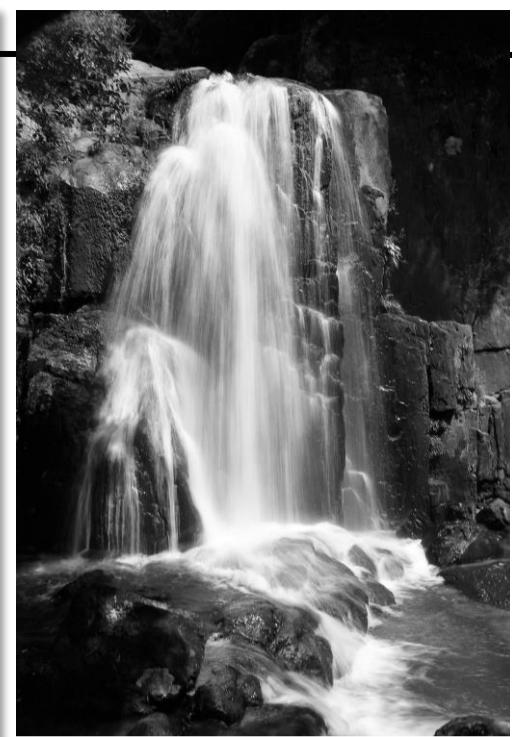
○飼い主不明猫対策

ボランティア活動家の皆さんのが群れ猫を捕獲して宮崎市付近の手術会場まで自家用車で運び、不妊手術をしてもらうのに一日かかるそうです。

手術料は「どうぶつ基金」と市とが連携して発行するチケットで無料ですが、手術会場の宮崎市近辺まで自家用車で運搬する燃料費などはすべて自費。

この際、宮崎県と宮崎市が共同で運営している「宮崎動物愛護センター」（宮崎市清武町）を宮崎市だけではなく、県下の同じ悩みを抱える市町村がお金を出し合つて、同センターへ仲間入りをして、各保健所（県管轄）に手術室を設置してはどうかとの提案をしました。

有効な手段です



鳥川・鵜毛地区間の渓流にある「増戸森の滝」

市長の答弁は、「有効な手段だと思います。捕獲器の調達と併せて、県や宮崎市との協議を行います。

また、市民の皆さんへの動物愛護に関する理解と協力を求めるとともに、飼い猫の終生飼育や繁殖制限などについても、県と連携しながら取組みます。

ボランティア活動家の皆さんには、大変なご苦労があることも承知しています。今後もご意見を伺いながら事業の円滑な推進に努めます」との温かい答えをいただきました。

○南部地区の交通インフラの整備

県道「中野原美々津線」（美々津橋南詰から国道10号まで）や「高鍋美々津線」の改修・整備についても質問しました。2路線は通学路ともなっており、特に「中野原美々津線」はダンプの往来が多く危険極まりないので県への要望活動を強めるようにお願いしたところです。

市長答弁では、「2路線は道路が狭く通行車両も多いと認識しています。要望は続けていますが、抜本的な改修が必要です。今後も「安全な通学路の確保」という視点から県への要望活動を強めます」との答えをいただきました。

市道「坂本飯谷線」（平岩・坂本地区から飯谷までの路線）の特に原地区から高速道路・隧道付近までの1.8キロ区間についても未整備で危険道路となっています。災害時の迂回路。県道・中野原美々津線までのバイパス路線として整備するよう求めました。

市長は「1.5車線的な道路整備として、他路線との整備状況、優先順位などを見極めながら対応します」との回答でした。

▶「ぷらっとバス」路線の見直し

このことは、中山間地域の最も重要な課題です。高齢化で免許証の返還をされた方をはじめ、免許証を持たない方にとって切実な願いで、路線変更を求めていました。幸脇3地区と余瀬地区合同での陳情書を去る6月3日に市長へ直接手渡しています。

「乗り合いバス南部」は、寺迫庭田線、飯谷田の原線、鵜毛畠木線の3路線で週1回の運行。市街地まで行くには日向サンパークで乗り換えを余儀なくされています。高齢者からは「足腰が痛いのにやれんど…」といった声を良く聞きます。乗り換えなしで市街地まで行ける見直しが必要です。

市長からは、「ルートの見直しについては、市街地を走る「ぷらっとバス」や「路線バス」、「JR」との接続や乗り継ぎを含めた全体的なダイヤ構成、法手続きなど、さまざまな観点からの検討が必要。引き続き、国や運行受託者、関係機関との協議を進めます」との答えをいただきました。

病院や買い物など、中山間地域で暮らす高齢者目線での真摯な取組み、スピード感を持った見直しが求められます。

皆さんお困りのことやご意見、ご要望、ご提案などがありましたら、いつでも気軽にお電話、メール、SNS等でご連絡くださいませ。

小林たかひろ事務所

▶住所：〒889-1112/日向市大字幸脇1088番地2

▶Tel・Fax：0982-58-0073 携帯：090-4347-2712

▶メール：kobat1125@gmail.com